

■まとめ

ゴールドコーストは、同じリゾートでも昨年行ったマレーシアのランカウイ島とは異なり、高層のビルディングタイプのホテルが多く都市的な一面を持っていた。ホテルのバルコニーはビーチを意識してのことかガラス手摺で形成されたものが多かったように思う。実際に滞在していたホテルもガラス手摺となっていた。そんなに広くはないバルコニーではあったがバルコニーで寛いでみてビーチとガラス手摺の相性が良いということを改めて実感した。

1年のうち300日以上が晴れといわれるゴールドコーストではバルコニーに出て過ごす時間というのも貴重な体験だったように思う。

シドニーは世界遺産であるオペラハウスを初めとして豊富な観光資源を持っていた。英国の植民地時代の雰囲気を持つ建物が点在している他、ダーリングハーバーは再開発されたことで多くの観光客を集めるようになり、クルージングの出発地点ともなっている。

シドニーは、オフィス街からオペラハウスのように個性的な建物、歴史ある建物、緑豊かな公園、ダーリングハーバーといった水辺までもが小さいエリアに集約している。

こういったエリアを見て回れただけでなく、ダーリングハーバーからのクルージングで美しいといわれるシドニーの街並み・夜景を海から見ることも出来た今回の研修旅行は非常に濃密なものであり今後の飛躍の糧として行きたい。

